

梅雨の候 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には恙なくお過ごしのことと大慶に存じます。3年続いた新型コロナ騒動も5月8日から第5類に分別され、鬱陶しいマスクから漸く解放されましたが、街ゆく人々の大多数はまだマスクが手放せないようです。

先月の自衛隊関連行事は特にありませんでしたが、GW休暇を利用して26年ぶりに四国一周をしたところ、松山の「坂の上の雲ミュージアム」では丁度出版50周年記念行事が開催されており、日露戦争に於ける秋山兄弟の活躍に今更乍ら感動させられました。

また高知の桂浜では見上げるような坂本龍馬の銅像脇に仮設足場が架けてあり、龍馬と同じ目線で土佐湾を眺めつつ幕末の激動期に龍馬が遣ろうとした「日本の洗濯」を今一度反芻しながら、丸い水平線の彼方にある未知の世界に思いを馳せたところです。

そして帰路淡路島の伊弉諾神宮を昇殿参拝後、本名宮司様より昨年11月に除幕された「樋口季一郎陸軍中将」の銅像をご案内頂き、そのご功績を偲ぶと共に戦後初めて建立された軍服姿の凛々しい銅像に最敬礼の上、心静かに手を合わせて来ました。

さて4月に生じた宮古島でのヘリ事故について既読の方もおられるとは存じますが、ネット配信された記事を抜粋して以下に転載しましたので、支部会員の皆様には是非ともご一読を賜り、この情報を共有して頂くようお願い申し上げます。

陸自ヘリ墜落直前、エンジン出力が急低下…フライトレコーダーに機長ら対応の音声記録  
5/24(水) 5:01 配信  
読売新聞オンライン

沖縄県・宮古島沖で4月に起きた陸上自衛隊の多用途ヘリコプター「UH60JA」の事故で、墜落の直前にエンジンの出力が急激に低下していたことが関係者への取材でわかった。海底から回収されたフライトレコーダーに録音されていた機長らの音声記録から判明した。事故は機体の不具合が発端で起きた可能性が高まった。

【地図】陸自ヘリの動き、墜落前に針路を変更

関係者によると、フライトレコーダーには、同機のエンジンが異常な音を立て、機体のトラブルを知らせる警報音も鳴る状況が記録されていた。エンジンの出力が下がる中で、操縦席に並んで座る機長と副操縦士が高度を保とうと声を出し合う様子も残されていた。

エンジンに不具合が起き、操縦席から対応すると伝えられた機内の隊員の1人が「はい」と答えた声も記録されていた。機体はその直後に海面に墜落したとみられ、「あっ」という声を最後に音声は途絶えたという。

同機は4月6日午後3時46分頃、宮古島の地形などを確認する目的で空自宮古島分屯基地を離陸した。同54分、近くの下地島空港の管制塔と交信したが、その2分後、同基地のレーダーから機影が消えた。

政府関係者によると、同機は離陸後、宮古島東側の海岸沿いを高度約300メートルで飛行。池間島を過ぎたあたりで針路を南西に変えた。この頃から徐々に高度を下げ、事故の直前は150メートル前後の低空を飛行していたとみられる。

エンジンの出力低下は、空港管制との最後の交信があった同54分以降に発生した。機体に異常が起きた場合に無線で宣言するエマージェンシー（緊急状態）は確認されておらず、機長らが機体の制御に追われていた可能性がある。

陸自は、フライトレコーダーを分析するとともに、海底から回収した機体の調査を進め、エンジンの出力が低下した原因の特定を進める。

事故機には坂本雄一・前第8師団長ら10人が搭乗しており、海底から引き揚げた6人の身元が確認されている。自衛隊は残る4人の捜索を続けている。

◆フライトレコーダー＝航空機の高度や速度、エンジン出力などのデータを記録する装置。機内の音声を録音する機能もある。墜落の衝撃に耐えられるように、記録媒体は頑丈な容器に格納されている。今回の事故では、機体後部から回収された。以上

坂本第8師団長を始め幕僚や宮古島警備隊長などの島嶼防衛を担う錚々たる高級幹部が瞬時にして戦死され、陸幕や西方総監部などに相当の激震が走ったと思われませんが、流石有事即応の自衛隊はそんな動揺はおくびにも出さず、粛々と日々の業務を消化しています。

私も突然の身近な将官級の不定期移動に驚きながらも、やはり宮古島へり事故の影響が人事等にも当然色濃く反映されているようにも思え、全陸自隊員は暫く落ち着かぬ日々を過ごされる事かと存じますが、「常在戦場」を肝に据え共に戦友の死を乗り越えて事に臨み、雄々しくこの苦難を乗り越えて頂きたいと希望する次第です。

未だ4名の隊員が消息不明の中、捜索隊員は勿論死力を尽くしてその任務達成に邁進されておられる事かと存じますが、ご家族や部隊同僚の心中を察すれば居たたまれぬ気持ちと重なり、我全国民等しく一刻も早い発見を祈らずにはおられません。

ところで G7 広島サミット成功を受けて岸田内閣の支持率が上がり、衆議院の早期解散を望む声が自民党議員から漏れ伝わって来ているとの報道がありますが、全く国民不在の議論と云わねばならず、前回総選挙の勝利から僅か2年足らずでまた選挙とは呆れます。

一体何議席取れば「憲法改正」に動くのやら、自民党は本当に「改憲」をやる気があるのか、これからその本気度とその推移をしっかりと凝視して行く必要があります。

令和5年6月1日  
宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦